

第 36 回国際 P2M 学会秋季研究発表大会結果報告

大会実行委員長 同志社大学 大和田順子
大会実行副委員長 早稲田大学 岡田久典

1. はじめに

2023 年 10 月 29 日 (日) に、京都市内の同志社大学今出川キャンパスにて、第 36 回国際 P2M 学会研究発表大会が開催されました。大会のテーマは「哲学と P2M で拓くソーシャル・イノベーションの地平」、対面とオンライン配信のハイブリッド方式で開催しました。

春季大会に引き続き、持続可能な社会の実現 (Sustainable Development) を取り上げました。持続可能な社会を実現するためには、ソーシャル・イノベーションの推進が鍵となります。ソーシャル・イノベーションとは、あ



図 1 同志社大学今出川キャンパス

らゆる種類の社会課題に対応する新しい「戦略」「概念」「理想」「組織」「手法」を示します。そしてその基盤には現代を読み解き、未来をイメージする哲学が必要です。その際に、私の問い(社会課題の発見)を、いかに私たちの問いにするか。そして、その問いを解くプロセスで生成 AI やテクノロジーをいかに活用するか、課題解決のプロセスをいかにデザインするか。様々な分野で、多様な主体が連携・協働したプログラムを P2M の手法で企画し前に進めていく。その解決策をスケールし、ソーシャル・インパクトを拡大するか。今こそ、そのような P2M 人材が社会に求められています。このような問題意識に立ち、わが国有数のソーシャル・イノベーションコース(SI コース)を持つ同志社大学において、哲学、ソーシャル・イノベーション、SDGs・地域循環共生圏、地域活性化の専門家の皆さまに、各分野の研究・実践の最前線ならびに展望を語っていただくとともに、P2M の有用性やソーシャル・イノベーションの今後の展開について皆様と議論しました。

なお、今大会では特別セッションとして、独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金(以下、地球環境基金)様にご協力いただき、地球環境基金30年の歩みと今後の展開や、5つの取組報告をいただきました。また、大会実行副委員長には京都大学農学研究科をご卒業の岡田久典先生(早稲田大学環境総合研究センター上級研究員)にご尽力いただきました。当日の運営は SI コースの教員や大学院生らが担当いたしました。

2. 大会実施内容

2.1. 研究発表

今回は、22 件の発表があり、A 会場 (P2M)、B 会場 (ビジネスマネジメント)、C 会場(人材育成・企業経営)、D 会場 (地域開発・ODA)、そして E 会場 (地球環境基金特別セッション)

ン) の 5 トラック並行での発表となりました。なお、地球環境基金特別セッションでは、招待講演として大島圭子様（環境再生保全機構地球環境基金部地球環境基金課副主幹）より、「地球環境基金の30年の歩みと今後の展開」についてご講演いただきました。地球環境基金は環境問題の解決に取り組むNPO等を支援する国内有数の基金であり、その30周年の節目に全国の団体より報告をいただいたことは、大変意義深いことだったと思います。

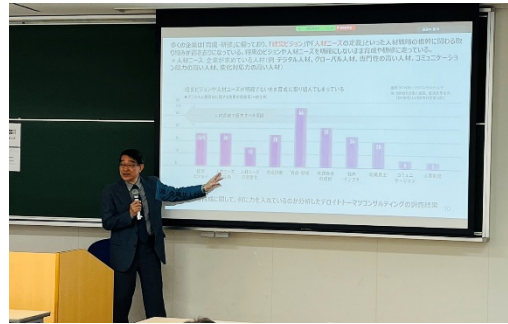


図2 A会場 亀山秀雄先生
「マネジメント力強化のためのリスク
キリング用プログラムマネジメント
教材」

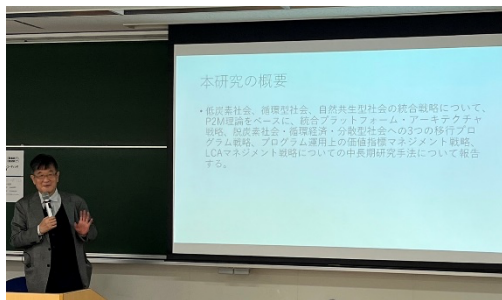


図3 A会場 岡田久典先生
「P2M 理論をベースとした三社会統
合戦略の研究」



図4 地球環境基金招待講演

2.2. 講演の部

開会挨拶は、亀山秀雄国際 P2M 学会会長、開催校挨拶は、多田実同志社大学政策学部教授が行いました。

基調講演 1 は、哲学者で京都大学大学院文学研究科教授である出口康夫氏が、「GX 時代における哲学、I から We へ」を。基調講演 2 は、『スタンフォード・ソーシャルイノベーションレビュー日本版』編集長で、同志社大学ソーシャル・イノベーションコース 客員教授の中嶋愛氏が、「ソーシャル・イノベーションの新潮流」を。そして特別講演として、同志社大学総合政策科学研究科ソーシャル・イノベーションコース教授の中嶋恵理氏が「地域循環共生圏とソーシャル・イノベーション」と題し、講演されました。



図5 基調講演 1 出口康夫教授



図6 基調講演 2 中嶋愛教授

パネルディスカッションは「ソーシャル・イノベーションを通じて持続可能な社会を実現

する」と題し、パネリストとして、地域再生マネージャーでイング総合計画代表の斎藤俊幸氏、環境省近畿地方環境事務所環境対策課長兼地域脱炭素創生室長の福嶋慶三氏、および出口康夫氏、中嶋愛氏、亀山秀雄氏が。進行役を大和田が務めました。



図7 パネリスト斎藤俊幸氏



図8 パネリスト福嶋慶三氏

ディスカッションは人材育成、資金調達をテーマに行いました。人材育成では、日本の人材の多様性の欠如、ネットと共に育ったZ世代、都市部の若者を村で学ばせる意義、若い研究者支援などが。資金調達に関しては、寄付税制の改革、クラウドファンディングの新しい使い方、PPP（官民連携）、金融機関との連携、企業版ふるさと納税、ビジョンやロジックモデルを作成した上での支援団体の調査などが提案されました。

会場からの質問では、若手研究者からは、研究助成に頼らない財源についての質問があり、斎藤氏から地域活性化事業を通じた財源確保の方法など助言がありました。

最後に持続可能な社会の実現に向けた価値観について、「人間中心主義の時代から、人間そして人類のみならず We を重視する社会へ」（出口氏）、「これからは非競争世代がその強みを活かし、社会的価値を市場価値に変えていくことをやってもらいたい」（斎藤氏）、「これからは地域のステークホルダーを巻き込んだ研究開発が必要」（亀山氏）などのメッセージをいただきました。

閉会挨拶は久保裕史氏（国際 P2M 学会副会長）が行い、一日のプログラムは終了しました。



図9 講演・パネルディスカッション会場



図10 パネルディスカッション



図 11 開催校挨拶 多田実教授



図 12 閉会挨拶 久保裕史副会長

3. おわりに

最後になりますが、5年ぶりに首都圏以外での開催となる大会の企画・運営の大役を賜り、不慣れな中、多くの皆さまに支えられ、大会を開催することができました。ご参加の皆さま、ご登壇くださいました講演者の皆さま、地球環境基金様、最新の研究成果を発表くださいました皆さま、また大会実行委員の沖浦文彦先生（東京都市大学都市生活学部教授）、小笠原秀人先生（千葉工業大学社会システム科学部教授）、そしてこのような貴重な機会を与えてくださいました国際P2M学会理事の皆さま、亀山秀雄会長に心より感謝申し上げます。

2023年12月22日受理